

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2013. 8
No.240

お陰様で20年です

この『社員の皆様へのメッセージ』もこの2013年8月号で20年継続することが出来ました。これも社員の皆様の支援のたまものと感謝いたします。

20年前、どうしてこのメッセージを始めたか、きっかけなど一度説明したいと思います。(10年偉大なり 20年恐るべし 30年にして歴史になる)

このメッセージを始めたきっかけは、日本経済新聞の記事で某会社の会長さんが社員さん向けに「メッセージを書いて、某会長の考え方を社員の皆さんに周知されているという小さな記事と出合ったことでした。

その記事を読んで私が思った事は、当時幡豆町に本社を移転し5ヶ年くらいが経過していました。ご多分に漏れず毎週月曜日に全体朝礼をし、毎回20分間くらい社員の皆さんの前で「お話しする」というものでした。

よく考えて見ると、社員数200名、工場は幡豆・米津・平坂と3工場ありました。私自身は全体朝礼ですつと満足していたのですが、現実に朝礼に出席出来る人は半分くらいの社員さんに過ぎないと思ふようになりました。

現実としては「夜勤の人」「時差の人」「他工場の人」は聞いていないということです。

尚且つ「スピーチ」ですから言った事が消えていってしまう、そんな事で本当に社員の皆さんにこの社長の考えていることが伝わっているだろうかと疑問に思うようになりました。そこで日経新聞に登場された某会長の記事と結びついた訳です。『よし、俺もやってみよう』と。

ところが文章を書くことが苦手というのは当時の弊社常務の神谷さんも良く分かって見えましたので「社長!! やめておかれた方がいいですよ。続けることは大変ですよ。社長の得意分野じゃないんですから…」とアドバイスを受け、一週間ぐらつき、迷いましたが、社員の皆さん

に自分(社長)の考え方を理解して頂くことと、自分の今大切にしていること、今考えていることを文章で整理して社員の皆さんに伝えようと決断いたしました。

そして何よりも述べさせて頂いた事が文章として残ること、だからいい加減じゃいけないということが私の思いにはありました。

また、自分の書いたメッセージはあまり読み返さないようにもしています。なぜかと言いますと、同じ事を何度も書くということはそれだけ社長の思いが強いということです。

また、同じ事でも変化があるということは私の考え方が進化・深化したことだと思っておりますので、あまり過去に書いたメッセージは読み返さないようにしています。今現在と未来の思いを社員の皆さんにお伝えしたいからです。

なぜ『菜根譚』を載せ始めたのか?

当初この「社員の皆様へのメッセージ」は文章を書くのは苦手な私ですし、継続させねばな意味がないということで、「肩に力を入

れず」たとえば、出張した時の見た事や考えた事など、日記的に気楽に書かせて頂くようと考えていました。事実、あまりに大した文章ではなかったのが実態です。(劣等感のかたまり)

その時期に小学校の子供のPTA会長を仰せつかっていた時期でした。夕方小学校へ出向き、PTA活動の打合せの前後、当時の校長先生で井戸一夫先生のご指導を受けておりました。

先生の部屋の黒板にいつも「漢文」が書かれていたのです。井戸校長先生に「あれは何ですか」と尋ねたら、「菜根譚」と言っていて中国明代末に書かれてものですよ」と言われ、井戸先生は週に一文ずつ書き携え読み続け、みえるということでした。「稲垣社長も読まれると勉強になりますよ」とお話しとアドバイスを頂きました。

私の下手くそな文章を皆さんに我慢して読んでもらっているのも辛いので、せめて「菜根譚」の一節ずつを月に一度皆さんにも紹介し、読んでいただけたらと思いついて載せさせていただきました。

そしてそれが何と、前集222詩、後集は135詩、

合計357詩から出来ていることがわかり計算しました所、私の年齢が70歳の時、2022年にちょうど全集357詩が終わると気づかされました。

これはちょうど良い目標が出来た…と思いう次第でした。

また道半ばですが、とりあえず2022年70歳まで(30年間)頑張つて書き続けてまいりますので、宜しくお願い致します。

昭和20年8月15日 天皇陛下の「終戦の詔」

今年8月15日で終戦から68年が経ちました。我が日本も、今一度、我々の国は我々が守り発展させていくために行動を起す時ではないかと考えております。

そんな時、終戦(1945年8月15日)に昭和天皇が『終戦の詔』をラジオ放送で発表され「朕深く世界の大勢と帝國ノ現状とに鑑み…」「朕は時運の趨く所堪へ難きを堪へ忍び難きを忍び…」という放送でしたが、「戦争が終わった」ということだけで昭和天皇が何を述べ

られていたのかと言うことを知らないのは私だけではないような気がしました。忠実に現代文にした「終戦の詔」を入手しましたので皆さんに紹介を致します。

昭和天皇は

- ・日本国民への感謝と世界繁栄
- ・日本と共に終始東アジア諸国の解放に協力してくれた同盟諸国への感謝
- ・未来永劫のために平和な世界を切り開きたい

国を上げて一家の子孫にまで語り伝え誇るべき自国の不滅を確信し…
・正しい道を常に忘れず…
など素晴らしい崇高なお言葉を発せられていました。

もう一度今残された我々は昭和天皇陛下の世界平和の願いを実現するためにもこの『終戦の詔』を読み返していただきたいと思いで。

このメッセージを20年間読みいただき、大変ありがとうございました。感謝いたします。今後共皆さんのご指導宜しくお願い致します。

合掌

終戦の詔

「私は、深く世界の大勢と日本国の現状とを振り返り、非常の措置をもって時局を收拾しようと思ひ、ここに忠実かつ善良なあなたがた国民に申し伝える。私は、日本国政府から米、英、中、ソの四国に対して、それらの共同宣言（ポツダム宣言）を受諾することを通告するよう命じた。

そもそも日本国民の平穩無事を図って世界繁栄の喜びを共有することは、代々天皇が伝えてきた理念であり、私が常々大切にしてきたことである。先に米英二国に対して宣戦した理由も、本来日本の自立と東アジア諸国の安定とを望み願う思いから出たものであり、他国の主権を排除して領土を侵すようなことは、もともと私の望むところではない。

ところが交戦はもう四年を経て、我が陸海将兵の勇敢な戦いも、我が多くの公職者の奮励努力も、我が一億国民の無私の尽力も、それぞれ最善を尽くしたにもかかわらず、戦局は必ずしも好転していないし、世界の大勢もまた我国に有利をもたらしていない。それどころか、敵は新たに残虐な爆弾（原爆）を使用して、しきりに無実の人々までも殺傷しており、惨澹たる被害がどこまで及ぶのか全く予測できないまでに至った。

なのにまだ戦争を継続するならば、ついには我が民族の滅亡を招くだけでなく、ひいては人類の文明をも破滅しかねないであろう。このようなことでは、私は一体どうやって多くの愛すべき国民を守り、代々の天皇の御霊に謝罪したら良いというのか。これこそが、私が日本国政府に対し共同宣言を受諾するように下命するに至った理由なのである。

私は、日本と共に終始東アジア諸国の解放に協力してくれた同盟諸国に対しては遺憾の意を表せざるを得ない。日本国民であつて前線で戦死した者、公務にて殉職した者、戦災に倒れた者、さらにはその遺族の気持ちに想いを寄せると、我が身を引き裂かれる思いである。また戦傷を負ったり、災禍を被つて家財職業を失った人々の再起については、私が深く心を痛めているところである。考えれば、今後日本国の受けるべき苦難はきっと並大抵のことではなからう。あなたがた国民の本心も私はよく理解している。しかしながら、私は時の巡り合せに逆らわず、『堪えがたきを堪え忍びがたきを忍んで』、未来永劫のために平和な世界を切り開こうと思うのである。

私は、ここに国としての形を維持し得れば、善良なあなたがた国民の真心を拠所として、常にあなたがた国民と共に過ごすことが出来る。もしだれかが感情の高ぶりからむやみやたらに事件を起こしたり、あるいは仲間を陥れたりして互いに時勢の成り行きを混乱させ、そのために進むべき正しい道を誤って世界の国々から信頼を失うようなことは、私が最も強く戒めることである。

ぜひとも国を挙げて一家の子孫にまで語り伝え、誇るべき自国の不滅を確信し、責任は重くかつ復興への道のりは遠いことを覚悟し、総力を将来の建設に傾け、正しい道を常に忘れずその心を堅持し、誓つて国のあるべき姿の真髓を発揚し、世界の流れに遅れを取らぬよう決意しなければならない。

あなたがた国民は、これら私の意をよく理解して行動して欲しい。」